

## 緊急硬膜外麻酔分娩 説明同意書

医療法人社団福神会 柴田産婦人科医院 説明医師： \_\_\_\_\_

患者様ご自身の希望により硬膜外麻酔を使用した分娩を行ないます。

1. 背中に注射をして麻酔薬を入れる細いチューブ（硬膜外カテーテル）を挿入します。
2. そのチューブから麻酔薬を注入して硬膜外麻酔分娩開始となりますが麻酔の効果が十分出てくるまで 20 分～30 分程かかります。
3. 陣痛が微弱となってきた場合は陣痛を促進する点滴を使用します。
4. 以下のような場合は帝王切開に変更となる点をあらかじめご了承ください。
  - a) 軟産道強靱、回旋異常、微弱陣痛、児頭骨盤不均衡、その他の原因による分娩停止
  - b) 臍帯圧迫、胎児及び胎盤機能不全、その他の原因による胎児心拍低下や心拍異常
  - c) 子宮破裂、母体の大量出血など緊急を要する状況
  - d) 胎盤早期剥離
  - e) 臍帯の下垂や脱出などがみられそのまま経膣分娩は危険であると判断したとき
  - f) 破水して長時間が経つても分娩のめどがたたない場合
  - g) その他医師が必要と判断した場合
5. 完全な無痛のみを目指して高濃度の麻酔薬を多量に使用すると分娩進行の大幅な遅延、局所麻酔薬中毒のリスクが高まる可能性、またいざという時にいきむことができなくなる可能性があります。硬膜外麻酔を使用した分娩の目的は痛みをゼロにすることではなく産婦さんにとって我慢できる程度に痛みを抑えて母児ともに安全に分娩を完遂させることである点にご留意下さい。
6. 硬膜外麻酔の鎮痛効果が著しく不良な場合はカテーテルの入れ替えをさせていただく事があります（約 5～6%）。期待していた通りの麻酔効果が得られなかった、麻酔の副作用が強く発現したため麻酔の使用を差し控えざるを得なく結果的に十分な麻酔効果が得られなかった、などの場合でも硬膜外麻酔分娩としてのコストは通常の分娩費用に加えてのご請求となります。
7. 痛みを感じる神経のみがブロックされた状態が硬膜外麻酔分娩の理想ですが、実際には運動を司る神経も多少なりともブロックされることが少なくないためトイレなどへの歩行の際脚に力が入らず転倒などの危険があります。従って硬膜外麻酔使用開始後から経膣分娩後数時間はトイレ歩行できず管を使つての排尿となります。
8. 背中の皮下脂肪が厚い、むくみが強い、背骨が極端に曲がっている、その他の理由により硬膜外麻酔のチューブが挿入困難、或いは不可能なケースがごく少数ながらあります。その場合は硬膜外麻酔分娩をあきらめそのまま自然に経過をみる（当院では 1%未満）か帝王切開に切り換えとなります。
9. 一時的な運動神経麻痺や低血圧、皮膚搔痒感、発熱は硬膜外麻酔分娩においては比較的よく

みられます。

10. 注射による血腫や感染は程度の重い例は極くまれですがあり得ます（当院では発生なし）。
11. 麻酔薬の血管内注入による痙攣、くも膜下腔への麻酔薬注入による広範囲な麻酔効果による呼吸困難に対する気管内挿管及び人工呼吸の必要性、脚のしびれ感や知覚鈍麻の半永久的残存は極くまれに起こり得ます（当院では発生なし）。
12. 十分な観察を行っても期せずして麻酔薬の血中濃度が高まり不穏、興奮状態、全身のしびれ、耳鳴り、不整脈などの症状が出現し中等症～重症の局所麻酔薬中毒と判断した場合は、当院で緊急処置をしつつ大学病院など高次機関に緊急搬送となります（当院では発生なし）。  
ごく軽症と判断した場合は硬膜外麻酔を中止して当院で必要な処置を行い緊急搬送を視野にいれつつ硬膜外麻酔なしの分娩となります（当院では疑い例含めて0,5%未満）。
13. 硬膜外麻酔の使用によって帝王切開率は上昇しないということが一般的な見解ですが、分娩時間が遷延する可能性はあり、吸引分娩、鉗子分娩率は上昇します（自然分娩の約1,5倍）。
14. 脊髄を取り囲む膜（硬膜）の穿破により麻酔後（多くは翌日又は72時間以内発症）頭痛を生ずることがあります。この頭痛は横になると症状軽快、立位で症状出現という特徴があります。安静臥床のみで一週間以内に自然消失することが殆どですが7日以上経っても症状軽快しない、憎悪する、横になっても症状軽快しない、などの場合は硬膜穿刺後頭痛の重症例或いはその他の神経学的合併症の可能性を考慮して高次機関への紹介を検討します（当院では発生なし）。
15. 産後一過性に膀胱が麻痺して一時的（数日程度、稀に1ヶ月ほど）に自発排尿ができなくなり管による排尿が必要になることが普通分娩でも一定の割合で起こりますが、硬膜外麻酔による分娩ではその発生率は上昇することが報告されています。

＊

私は硬膜外麻酔分娩についての説明に理解、納得、同意致しました。よって関連する医療行為を一任します。なお医学的常識に基づく医療行為が行なわれたにもかかわらず万一発生する不可抗力の事態の発現の可能性についても理解しました。

\_\_\_\_\_年\_\_\_\_月\_\_\_\_日

ご本人氏名（自署） \_\_\_\_\_ 印

ご住所 \_\_\_\_\_

配偶者又はご家族など氏名（自署） \_\_\_\_\_ 印

2025.08.24 改訂